



タレント田村敦さん 全葬連フューネラルアンバサダーに就任

弊社が加盟する経済産業大臣認可 全日本葬祭業協同組合連合会(全葬連)のフューネラルアンバサダーとして、タレントの田村敦さんにご就任いただきました。

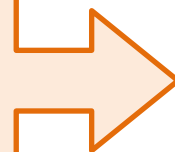
2020年8月に他界した母・久仁子さんの葬儀を機に、新しい葬儀の在り方や人の死への向き合い方などを改めて考え直し、当時の想いやエピソードについてお話しになった動画を公開いたしました。



Youtube 吉本興業チャンネル

【死ぬ前に、話しておきたい】
皆さん、どんなお葬式がやりたいですか？

<https://youtu.be/ZEF-InCJsfe>



母・久仁子さん自らが葬儀プロデュース

田村さんは、2020年8月、がんのため72歳で死去した母・久仁子さんの葬儀をコロナ禍に執り行いました。「葬儀が終わっても、心にぽっかり穴が開いて何もできないという風にはならなかった」「しっかりとお別れができていくタイプ」だと言います。それは「母ちゃんがしっかりと自分の死をプロデュースしていたから」だと。

久仁子さんは生前に、自身の葬式に出てもらおうお坊さんの選出や、葬儀に参列された方が食べるお弁当の指定、葬儀中に流れるBGMまで、細やかに遺言に記していました。

当日はこれまでの葬儀という印象をあまり感じない温かい雰囲気です。田村さんはこの時の葬儀について「泣いたし笑ったしの繰り返しで、だけどこれが久仁子がやって欲しかったことなので、そこはすごく満足感がありました。ちゃんと見送れたな」とコメントしました。

亡くなった後のことは 生きていうちに家族で話しあう

送る側、送られる側の双方が心残りしないように亡くなった後どのようにしてほしいかの話をするタイミングとして、田村さんは「うちの母ちゃんは誕生日をそういう風に使っていました。生まれた日なんだから、死ぬことを意識する日、いつかは死ぬんだから」と田村さんの誕生日をお祝いすると同時に、お母様が自分がどのように死にたいかという大切なメッセージを伝えてきたそうです。

田村さんのお話しを聞いて、本人の思う通りの葬儀をすることができたという思いは、故人だけでなく送る側の心にも多くのものを残すことができる、そしてそれはこれからも生きていく上でとても大切なものとなるに違いないと感じました。



事前相談承っております

田村さんのお母様は自ら葬儀をプロデュースされましたが、私たち葬儀社がそのお手伝いをさせていただきます。

私たちはご葬儀の「やり方」ではなく、ご遺族が思い願うご葬儀の「あり方」を一つひとつ真心でもってご提供していくことを大切にしています。どうぞ安心して私たちにお任せください。



エンディング
ノートございます



☎0120-594-103

相談・見積もり・式場見学無料
お気軽にご連絡ください

弊社に、新しい霊柩車が納車されました



新しい霊柩車が納車となりました。男鹿葬祭社の洋型車です。

皆さんは霊柩車というどのようなタイプを思い浮かべますか？現在はリムジン型霊柩車が最も多くの割合を占めています。高級車を改造したシンプルな見た目、今回弊社に納車となったのも、この型です。これ以前は宮型霊柩車をよく見ました。神輿のような豪華な飾りがついており遠くから見てもすぐにわかるようなつくりですね。弊社でも〇年前までは使用していましたが、現在ではほとんど見かけなくなりました。

宮型霊柩車は大正時代に霊柩車が広まり始めたころから存在しており、かつては70%以上を占めていました。しかし、2009年にはリムジン型が宮型を上回り現在は大半を占めるようになってきました。宮型が減った理由の一つに、自治体が火葬場近くの住民に配慮し、宮型の出入りを禁止した背景があります。以前とは逆で、その豪華さで目立ってしまうことが、懸念材料になってしまったのです。



宮型霊柩車

文化は時代とともに変化していきませんが、宮型の豪華な飾りは職人により祈りを込めて彫られた非常に芸術性の高いものです。使用されなくとも、博物館などで保管はしてもらえたらと思っています。

編集後記:

昨年は色々な事がありましたね。

元旦に起きた能登震災から始まり、全国で起こりえる押込み強盗殺人、... 秋田県では雨による水害被害、熊被害、特殊詐欺や、なりすましのロマンス詐欺により多額のお金を騙し取られる被害を紙面で見る。人間的欲からだろうか？

そんな暗い出来事の中、メジャーリーグのドジャースで記録づくめな活躍した大谷翔平さんが、国民を明るくしてくれる話題もありました。今年も二刀流での頑張りを期待しているところです。

国内では岸田政権から石破政権に代わり、(秋田県も佐竹知事から...?) これからの日本はどう変わっていくのだろうか？

話題が前後になりましたが、昨年の11月29日秋田駅隣のアルベ内のきらめき広場で、私たち葬祭業者によるイベントを開催しました。上記芸能人、田村敦・監修「イタコ展」... 終活セミナーや、展示物・葬儀全般の悩み事・入棺体験など来場者数は約300人程でした。特に入棺体験コーナーでは、生きていればこそできる体験。次から次と若い人達が体験されていました。私も始まりから、終わりまで参加してきました。当日の、ABSテレビ・AKTテレビでは、生中継で放映されました。